

# WEEKLY

# 一宮

題字 PG 安野謙次



重文 「陵王」面 真清田神社蔵

## Rotary

一宮RC



### The Rotary Club of Ichinomiya

●例会日 木曜日 ●例会場 一宮商工会議所 ●承認日 昭和24年12月31日

●事務局 一宮市栄4-6-8 一宮商工会議所ビル5階 電話(0586)24-1931 ☎491-0858

## ロータリーのマジック

URL:<http://rc138.org>

E-Mail:[rc138@lily.ocn.ne.jp](mailto:rc138@lily.ocn.ne.jp)

### 2024年12月19日 第3619回例会



会 長	佐々木久直	会長エレクト	山上哲司
副 会 長	森 克彦	副 幹 事	大鹿晃裕
幹 事	鶴 飼 雅 弘	会報委員長	浅 野 一



### プログラム

卓 話  
中村武志氏

(中日ドラゴンズOB)

テーマ「中村武志からみた星野ドラゴンズ」

ロータリーソング「四つのテスト」

第3618回例会の記録

2024年12月12日(木)

### 会長挨拶

佐々木久直

本日も例会にご出席いただきありがとうございます。今日の例会はインスピレーションスピーチです。坂野公治さん、判治忠明さん、宜しくお願いします。

今週の12月10日(火)に日本原水爆被害者団体協議会へのノーベル平和賞の授与式が、ノルウェーのオスロにて行われました。受賞理由は、「核兵器のない世界の実現に長年にわたって努力し、核兵器が二度と使われてはならないことを、証言を通じて示してきた」こと、また「並外れた努力が核のタブーの確立に大きく貢献した」ことに対してです。平和賞は「国家間の友好関係、軍備の削減・廃止、及び平和会議の開催・推進のために最大・最善の貢献をした人物・団体」に授与されます。授賞式では田中熙巳さん(92)がスピーチされ「日本被団協を代表して被爆者が歩んできた道のりを紹介」しながら世界へ核兵器廃絶を呼びかけました。ノーベル賞の授与式は、ノーベルの命日である12月10日に、スウェーデンとのノルウェー両国の和解と平和を祈念して「平和賞」を除く5部門はストックホルム(スウェーデン)のコンサートホール、「平和賞」はオスロ(ノルウェー)の市庁舎で行われ、受賞者には、賞金の小切手、賞状、メダルがそれぞれ贈られます。平和賞の賞金の1100万スウェーデン・クローナ(約1億5000万円)は、被団協の活動や被爆者運動に活用するとの事です。

### 次回の予定

12/26 休会 定款第7条第1節d

1/2 休会 年末年始休業

1/9 一宮4RC合同新春例会

日本の受賞者としては50年前の1974年12月10日に佐藤栄作元首相が、核を「持たず、つくらず、持ち込ませず」の非核三原則の提唱や、アジアの平和への貢献を理由として日本人で始めて受賞されました。

今月は「疫病予防と治療」月間です。本日のロータリーの友に関連記事が記載されていますので、是非ご一読ください。年末を迎えインフルエンザやコロナにかからないように、お互いに気を付けましょう。

### ロータリーの友12月号

内藤幹夫

表紙両面には「街-クリスマス」と題して多才な障害者アートとなっております。温かい雰囲気のカリスマが上手に表現されています。

横組み7頁から12月は「疾病予防と治療月間」です。日本の地域医療の様々な課題に対してロータリーがどのように貢献できるかについての考察がされています。地域の人やその他の団体などとの連携の必要性と、元グローバル補助金奨学生の方が地元に戻り地域医療現場に還元する記事の2例が記載されています。

28頁から31頁は公益財団法人ロータリー日本財団の令和5年度の事業報告がされています。

縦組み4頁から8頁のSPEECHには、「病気は第二の人生のスタート」と題して、競泳の池江選手と同じ病名の10万人に1人のリンパ性の白血病の長い治療を乗り越えて完全寛解したフリーのアナウンサーとして体験を広く伝え、ボランティアにも積極的に活動されている小澤由実さんの実体験が紹介されています。

### 委員会報告

#### ニコボックス

原 正則

☆ 鎌田芳彰君

12月10日に行われた一宮商工会議所ゴルフ会で、森克彦さんらメンバーに恵まれて楽しくゴルフができ、ゴールド部門優勝いたしました。15番で打ったボールが木に当たって20メートル後ろに飛んだこともあり、ダブルペリアで大たたきしたところが入り、非常にラッキーでした。

☆ 桑原英寿君

12月10日に開催されました一宮商工会議所議員ゴルフコンペにてシルバー部門の部で優勝することが出来ました。同じ組で森隆彦様・渡邊肇様に感謝、ありがとうございました。

- ☆ 坂野公治君  
歴史と伝統ある一宮ロータリークラブにて、イニシエーションスピーチをさせていただき喜びで。
- ☆ 判治忠明君  
本日、歴史と伝統ある一宮ロータリークラブで自己紹介させていただける喜びで。これからもよろしくお願いたします。
- ☆ 江崎正和君 木村憲彦君  
米山記念奨学生の李昱さんをお迎えした喜びで。
- ☆ 佐々木久直君 鷲飼雅弘君  
米山記念奨学生の李昱さんをお迎えする喜びで。ようこそお越し下さいました。  
本日はイニシエーションスピーチです。坂野公治さん、判治忠明さん宜しくお願い致します。

**出席報告**

現在の会員数 114名  
 本日の出席数 67名  
 前々回の出席率 100%

\*\*\*\*\* プログラム \*\*\*\*\*  
 イニシエーションスピーチ

坂野公治君

テーマ「自己紹介」



昭和38年名古屋市で生まれ、津島市で育ちました。高校は県立五条高校に片道1時間余りを自転車通って大学は東京大学に進学し、卒業後は運輸省に入省しました。大学時代は勉学よりは合気道に熱中し、部の活動で韓国の各大学を歴訪したのが思い出となっています。今の学生とは違い特段の目的意識もないまま同級生の多くに倣って国家公務員職に就きましたが、幸い在職30年余りで様々な分野に携われたことは得難い経験で今では良かったと感じています。

官庁の人事ローテーションは2年程度、その間、北京での大使館勤務、茨城県警察本部での警察幹部としての経験、航空テロ対策の立案と外国との協議、日本の空港と空域の容量拡大のための航空管制の高度化と安全の両立、1万数千人の海上保安官の人事管理、日本政府観光局(JNTO)の組織体制の見直し、北海道周辺海域の領海警備と安全確保など、多岐にわたる経験をしました。いずれも政治との関係や予算・定員等様々な制約がある中で利害関係を調整し、行政目的を実現するために制度や計画をつくり実施するというやりがいのあるものでした。

名古屋鉄道(株)入社後は、コロナ禍により大きな打撃を受けたグループ各事業立て直しのための中期経営計画の策定等を経て、現在鉄道事業を担当しています。鉄道事業はコロナ禍の影響からは脱しつつありますが、少子化・人口減少の進展を見据えると、担い手となる人材の不足や輸送需要

の減少等事業環境はますます厳しい状況になります。省力化や人財投資を進める一方、リニア中央新幹線やセントレア滑走路増設による需要増を取り込むとともに、沿線を中心に地域づくり・まちづくりを進めて需要の創出を図っています。今後も安全・安心輸送を確保しつつ、未来に向かって魅力ある交通サービスの提供を通じて「名鉄×WAO」を実践し、地域社会の発展に貢献してまいります。

判治忠明君

テーマ「自己紹介(愛知万博の思い出)」



私は昭和39年3月西尾市で生まれ、高校卒業後神戸外大に入学、大学卒業後愛知県庁に入庁し、本年3月に退職しました。5月から一宮商工会議所で勤務、6月に歴史と伝統ある一宮ロータリークラブに入会させていただきました。今日は、37年間の県庁勤務の中で特に印象深かった愛知万博に関わる業務について話をさせていただきます。

私が県の万博担当部署に配属されたのは2000年4月で、連日夜遅くまで残業しタクシーで帰宅することもしばしばありました。転機は3年目の秋。外務省から電話があり、「職員を派遣してもらいたい。」とのこと。派遣職員の人選でひと悶着あって結果的になぜか私が行くことになり、2003年4月から万博終了まで外務省博覧会室で勤務しました。

万博での外務省の主な役割は、諸外国に対する参加招請、参加国のナショナルデー開催に係る調整など、外交にかかわる部分です。開催決定後、まずは参加招請に注力しました。参加国数は万博成功を判断するバロメーターなので、在外公館を中心に、政府要人の外国訪問等の機会をとらえて参加を促しました。途上国に対しては、ODAを提案しつつ参加招請しました。

参加表明国が増えてくると、今度は、ナショナルデー(ND)開催の準備にかかります。NDとは、「万博の会期中に、参加国が自国の文化などを紹介する日」です。その日に合わせて本国から元首や王族等の要人が来日されるので、日本政府要人との会談等も準備します。要人の警備については警察と綿密な打ち合わせを行い、特別機で来日する要人に対応するため「空港会議」を開催しました。

また、外国人へのビザの発給も外務省の主要業務の一つですが、愛知万博でも各国パビリオンで働く外国人に対して特別な対応を行いました。参加国から事前にパビリオンで働く予定のスタッフリストを提出してもらい、本省で身元確認を行いました。問題がなければ、スタッフ本人から在外公館にビザ発給の申請があった際、本省に確認することなくビザを発給できるようになりました。

一部とはいえこうした業務に携わったことは、普通の県職員ではなかなかできない大変貴重な経験でした。